

第 5 回生物多様性国家戦略小委員会及び第 45 回自然環境部会等 における委員からの意見及びその対応

- 誤記や言い回しの修正に関するご意見は割愛しています。
- 資料作成に当たり、記載スペースの都合上、ご意見・ご発言の内容の趣旨を損なわないよう、簡潔な表現に修正しています。
- どの時点でいただいたご意見かわかるよう、「区分」欄で以下のとおり記載しています。

「小委」：第 5 回生物多様性国家戦略小委員会でもいただいたご意見

「部会」：第 45 回自然環境部会でもいただいたご意見

「個別」：上記以外でメール等で個別にいただいたご意見

【背景】

本文	委員からの意見	対応	区分
背景	● 「社会資本」が、道路、下水道などいわゆる公共資本を指すのであれば、次行の「人工資本」と重複する部分があるので、構成の工夫が必要。	○ 重複が生じないように当該箇所から「人工資本」を削除しました。	個別
	● 自然資本という言葉がキーワードとしてあるが、最近関心が特に高まっており重要。一方議論の系譜がシューマッハからエコロジカル経済学とあった。用語集とか何らかの形でキーコンセプトとして意味を明確化してほしい。	○ 用語の解説については、用語集等も活用してまいりたいと考えています。	小委
	● 「地下資源」というのが少しわかりにくい。	○ ご指摘を踏まえ説明を追記しました。	個別
	● 「日本に住む我々の責任を果たすことができる」という表現に違和感がある。	○ ご指摘を踏まえ表現を修正しました。	個別
	● 「「国家湿地政策」との位置付けもある」とは、国家湿地政策も包含する、ということか。必要な条件は満たしているか。	○ 現行戦略は我が国の国家湿地政策としても位置付けられており、その明文化を図ったものです。今回の戦略では湿地に関するものを含め、多様な施策を記載しており、要件は満たしているものと考えています。	個別

【第1部】

本文	委員からの意見	対応方針	区分
第1章	●愛知目標の評価に関し、日本の評価については述べなくて良いか。	○日本の評価については第1章第2節で記載しています。	個別
	●生物多様性あるいは自然資本を活用するということが費用効果的だということを明確にしてほしい。 気候変動のところで書いてあるだけだが、Eco-DRR や都市のレクリエーションに関しても、自然資本を活用することが非常に費用効果的であるということは共通の理解となっている。 費用効果性の高い政策を導入するということは、財政の持続可能性にも非常に資するものがあるというようなことを、ぜひ想起させるような文言もぜひ入れていただきたい。	○ご指摘を踏まえ、自然資本の費用対効果について追記しました。	部会
	●気候変動のところで、海洋のレスポンスが大きい・早いということや、藻場のブルーカーボンのポテンシャルを追記すべき。	○ご指摘を踏まえ、海洋環境の項でレスポンスやポテンシャルについて追記しました。	小委
	●【食料生産】の箇所について、水産業が直接的な供給サービスとして非常に大きいので、食料生産の大きなところを担うものとして漁業をもう少し明示的に入れていただきたい。	○ご指摘を踏まえ追記しました。	小委
	●野心度という言葉が出てきて（第4章では）水準と説明がある。野心度は、国際的には使われる用語であるが、個人的にはどういう意味かとおもってしまう。野心度という言葉を使ってよいのか。	○新枠組で野心度という言葉は使用されませんでしたので、本文でも使用しないよう修正しました。	小委
	●個別の文献をすべての箇所に科学的根拠を挙げるのは現実的ではないので書き方を再検討すべき。	○ご指摘を踏まえ、個別の論文の記載は行わないよう修正しました。	小委
	●外来種の部分で輸入種子の記載があるが、細かい事例で終わる話ではない。国境線で区切るのではなく生物地理区分を考慮すべき。国境線の中だからよいというのではなく、何が悪いかを明確にしておくべき。	○遺伝的形質の異なる異なる個体が持ち込まれることが懸念であると記載しており、ご指摘の趣旨を含め記載しています。	小委
	●化学物質について、「広く普及」ではなく「広く利用」が進んだとする方がよい。また、「環境中に広く存在」とあるが、人間が放出したものが残留しているという表現の方が的確である。	○ご指摘のとおり修正しました。	小委
	●化学農業の問題がクローズアップされているが農業に特化すると化学物質の問題が狭く見える。排出量を考えると日用品・生活排水の有害性を含めて総	○ご指摘を踏まえ、工場排水等、農業に特化した記述とならないよう	小委

	合的に対応する必要がある。農業にフォーカスを当てた書き方はいかがなものか。	修正しました。	
	●「ニホンジカの高緯度への分布拡大」は誤りであり、高緯度地域の北海道ではすでにほとんどの地域にシカが生息していることから、「ニホンジカ等の高緯度・高標高域への分布拡大」は「ニホンジカ等の積雪地域・高標高域への分布拡大」とすべき。	○ご指摘を踏まえ、高緯度から多雪地域に修正しました。	個別
	●社会インフラとの記載があるが、背景冒頭では社会資本とあった。	○ご指摘を踏まえ、社会資本に修正しました、	個別
	●「総人口は2004年にピーク」とあるが、2008年が最終的には正しい。	○ご指摘のとおり修正しました。	小委
	●「グローバルな人・物の動きにより、特定の地域で発生した新興感染症が国境を越えて広く国際社会全体に拡大が懸念される。」の一文が唐突な印象。	○ご指摘を踏まえ、記載箇所を移動しました。	個別
	●「社会経済に内在する生物多様性の損失要因（生物多様性が主流化されていない状況）」の（）がわかりにくく、（）の前の説明にもなっていない。（）ではなく、「と」でつないだ方がいいのではないか。	○ご指摘を踏まえ、表現を修正しました。	個別
	●「我が国が有する生物多様性の保全に資する技術や製品・サービスあるいは知見」について、イメージが湧かないので具体的な例も挙げた方が良い。	○具体例を挙げることにより、イメージを限定的にさせる可能性があるため、原案どおりといたしました。	個別
	●生物多様性、生態系、自然資本の用語、特に生物多様性と自然資本が統一のルールなく混在的に使われているような印象がある。それぞれがどのような意味を持つものとして使用されているのか、また、文脈に応じて使い分けることの必要性やそのケースなど、全体を通じて理解を統一していただきたい。	○ご指摘を踏まえ、記載に重複等が生じないように表記を見直しました。	小委
	●「生物多様性・自然資本によるリスク・機会を取り入れた経済（ネイチャーポジティブのドライバーとしての経済（ネイチャーポジティブ経済）」の（）が多くわかりにくい。	○ご指摘を踏まえ、標題を簡潔に修正しました、	小委
	●「課題の対処において重要な考え方」において、「脱炭素」もキーワードに加えたらどうか。	○当該箇所は記載方針の見直しにより、削除することとしました。	小委
第2章	●「自然のバランスを崩さず」の具体的な意味がわからない。	○ご指摘を踏まえわかりやすい表現に修正しました。	個別
	●「豊かな生物多様性に支えられた健全な生態系が確保された社会」とあるが、健全な生態系と豊かな生物多様性は双方向の関係であり、片手落ちでは	○健全な生態系が確保された社会を目指すべきものとしていることか	小委

	ないか。	ら、当該箇所は原案どおりとしますが、ご指摘を踏まえ、本文において双方向性について追記しました。	
	●「生物多様性と生態系に対する配慮が内部化されている」は理解しづらいので、他の用語で置き換えるべき。	○ご指摘を踏まえ、わかりやすい表現に修正しました。	小委
第3章	●基本戦略1のタイトルについて、基本戦略1は直接要因に対する働きかけとして掲げられているものであるため、前回の小委では、生物多様性の保全は戦略全体の目標であるためここに入れるのはそぐわないとは聞いたが、「生物多様性の保全・再生への直接的な取組」を入れてほしいと改めて申し上げる。	○わかりやすさの観点からタイトルは簡潔な表現にしていますが、説明中で直接的な取組について記載しております。	小委
	●「気候変動にも順応性の高い生態系」の表現がしっくりこない。「気候変動への順応性の高い生態系の回復」又は「気候変動へのレジリエンスにも寄与する生態系の健全性を高める」ということか。	○ご指摘を踏まえ、表現を修正しました。	個別
	●基本戦略4の説明に「生活・消費活動と生物多様性の密接な関わり」とあるが、関係価値に関する位置づけを含めて市民と生物多様性はもっと深い関係がある。環境教育・学習、観光や地域文化など、2節の記載に合わせて具体的に変えてはどうか。	○具体的な内容は第2節で述べており、ここでは「生活・消費活動」で広く読むこととしています。	小委
基本戦略1	●「野生生物の保護管理」とあるが、保護管理という言葉は日本独特の使い方と認識。英語でいうとコンサベーションに当たると思われるが、この文章の中で、保護、管理、保護管理、保全という言葉はどう使い分けているかというのがよく分からないところもある。英訳も念頭に一通り見直したほうがいい。	○ご指摘を踏まえ、当該箇所は「保全」に修正しました。	部会
	●「保護地域による保全」の中の海洋保護区の記載について、海洋保護区は法律またはその他の効果的な手法によるものであり、OECMにも絡む。OECMに入れるか入れないかも判断だと思うが、もう少し海洋保護区の記載を充実させてほしい。	○海洋保護区は保護地域として取り扱っていることから、保護地域に関する追記は行いませんが、ご指摘を踏まえ、OECMの項の中で、海域のOECMについて追記しました。	小委
	●「沿岸・海洋」の記載について、沿岸は森里川海からの影響を非常に受けることや、海域と海域をつなぐ海流のネットワークもあるので、もう少し記載してほしい。	○ご指摘を踏まえ追記しました。	小委
	●「藻場・干潟・サンゴ礁等」に海草場を加えなくて良いか。	○海草場は藻場に包含されるものと	個別

		考えています。	
	●微生物類の生物多様性などには言及がないが、それでよいか。アオコや赤潮等の微生物を含む生態系の健全性もあり、今後微生物に関する議論は増えるかと予想されるので、生物多様性と絡めた記述があると良い。	○第2部において、基本戦略3や5の個別施策として微生物に係る施策を記載しているほか、附属書に掲載する生態系サービスの解説において微生物にも触れています。	個別
	●目標の設定に係る記述の中で、種のレベルの書きぶりが不足している。例えば「直接的な採取に加え」の前に、「生息地の開発」や、あるいは「減少や」と入れていただくことや、「外来種・汚染等の影響により」の前ところに「里地里山における自然に対する働きかけの縮小」というようなものを入れていただかないと、重要な要素が抜けてるのではないかと。	○目標の設定に係る解説は簡潔な表現にしています。当該箇所については、具体的に記載すると損失要因を限定しているように読めるため、個別の要因の記載を削除しました。	小委
	●状態目標①②③に%を示す場合は、母集団が何をさすのか明示するのが望ましい（実際に計算が可能なのかも要検討）	○状態目標①～③については、新枠組を踏まえ、%を示さないかたちとしました。	小委
	●「管理の有効性」について、それぞれの保護地域や OECM で有効性を確認することも大事だが、今回の戦略はそれらを連携して生物多様性につなげると書いてあると思うので、ネットワークも含め有効性を評価するという書きぶりになるとよい。	○保護地域や OECM は生態系ネットワークを構築する場として重要である旨は第2部において記載しており、目標は原案どおりとしますが、ご指摘の趣旨は含んでいるものと考えています。	小委
基本戦略2・基本戦略5	●「利用者負担」とあるが、生物多様性の便益はツーリストだけが受けるのではなく地理的に近い人も遠い人も受ける。もう少しカバーする範囲を広げ、受益者の支払いを拡充する仕組みとしてはどうか。費用が発生するものが負担であるが、費用が発生しなくなっても、例えば受益者が非常に薄い料金を、あるいはお金をその生態系サービスのために支払うということも可能性として残すという意味で、「受益者支払い」という言葉を検討されたい。	○国立公園満喫プロジェクトに係る記載については原案どおりとしますが、エコツーリズムに関する記載については、ご指摘を踏まえ利用者に限定しない記載に修正しました。	小委
基本戦略2	●Eco-DRR に関する記載について、マングローブ、藻場がブルーカーボンも Eco-DRR にもつながることを追記してはどうか。全体の例示が陸に偏っている。	○ご指摘を踏まえ、例示が偏らないよう追記しました。	小委
	●他成策とのシナジーという意味では、資源循環とのシナジーももう少し強調	○循環経済との関係を強要するよ	小委

	すべき。海洋プラだけではなく、循環資源の利用を進めていくことによりバージン資源の削減になる。また、鉱物の採掘は生物多様性に大きな影響がある。政策間のシナジーを生物多様性から言及した方が良い。	う、追記しました。	
	●目標の設定に係る記載の中で「再生可能エネルギーの導入に際する生物多様性配慮を進める」とあるが、現在、既に各地でコンフリクトが起きている現状などを考えると、環境影響評価の手法の課題なども考慮しながら、もっと、具体的に政策を書き込んでいく必要がある。	○ご指摘の箇所は目標設定に当たっての考え方を簡潔に記載したものであり、具体的な記載については(2)で行っています。また、施策については第2部で取りまとめています。	個別
	●樹木の病気などについて言及しなくて良いか。	○ご指摘を踏まえ、(2)①に追記しました。	個別
基本戦略3	●「生物多様性・自然資本」とあるが、生物多様性と自然資本が異なる意味で用いられているのか。	○重なる部分はありますが、異なる意味で用いています。	個別
	●微生物や遺伝子工学に対する言及はなくて良いか。	○遺伝子工学は行動目標1-5に関連する施策として第2部で記載しているほか、微生物利用については行動目標5-2に係る施策として第2部で記載しています。	個別
	●状態目標で、農林水産業だけ特出しされているのに違和感がある。また、特出した農林水産業の記載はさっぱりとしており、持続可能な農林水産業の拡大だけで寂しい。行動目標も同様。	○第1章で述べたとおり、GB05が指摘する、移行が必要な8分野のうち半数が農林水産業であるという背景があることから、特出ししています。なお、目標自体の記載は簡潔にしていますが、第2部において多数の施策を位置付けています。	小委
	●行動目標で、事業活動を通じ負の影響を減らすとあるが、これは新たなビジネスが生まれ、そのビジネスによって負の影響が減るのか、それとも、現在負の影響を与えているビジネスを変容させて、そのビジネスが負の影響を与えなくなるという意味なのか、はっきりしない。	○いずれの意味も含有するものと考えています。なお、目標の修正の検討の結果、行動目標では当該記載を削除しましたが、同様の文言を状態目標に追記しました。	部会
●TNFDで評価・開示ばかりが目されるが、やるべきことはトレーサビリティ	○ご指摘を踏まえ、指標を検討して	小委	

	や持続可能な調達である。持続可能な調達の目標値や比率などを目標値にしてほしい。	まいります。	
基本戦略4	●ナッジに係る脚注の説明がわかりにくいいため、修正を提案する。 (提案内容は割愛)	○脚注の記載が複雑になるため、説明は本文中で簡潔に行うよう修正しました。詳細な説明については用語集の活用も検討してまいります。	個別
	●「我が国における人と自然の共生に関する伝統文化や～」の前に「鎮守の森、八百万の神に象徴されるような、」と例示を入れてほしい。例示をすることが国際的な発信やわかりやすさの重視にもつながる。	○ご指摘を踏まえ追記しました。なお、文章構成の検討の結果、記載箇所を移動させました。	小委
	●「地域の自然の恵みをひきだし」とあるが、「活かす」の方が良いのではないか。	○ご指摘のとおり修正しました。	小委
	●自然とのふれあいについて、農業体験はよいが、都市内にも森林があるし、森林を持続的に使うとかの可能性にも言及できるよう幅を広げるとよい。	○ご指摘を踏まえ追記しました。	小委
	●目標設定に係る記載について、漠然とした記述となっており、もう少し具体的にどういうふうなことをすると生物多様性の配慮が行われるのかとか、どういう行動を私たちが取れば配慮ができるのかとか、そういうことが分かるような記述になればよい。	○ご指摘を踏まえ、一人一人の行動が必要な理由を追記しました。なお、具体的な行動については第2部で記載しています。	部会
	●状態目標2の「消費行動において、生物多様性への配慮が行われている」ということの具体的な内容、つまり、どんな「消費行動に変えると生物多様性への配慮となるのか」をしっかりと行動目標の中で、伝える必要がある。	○各行動目標の詳細については、第2部において記載しています。	個別
基本戦略5	●環境研究総合推進費の記述はなくてもよいのか。研究というのはブレークスルーが大切であり、多くの研究者が環境研究に参画しやすい「土壌」を育てていくことが必要。そうした意味でも、環境研究総合推進費を活用して、より多くの研究者が自然環境に関する研究に携わっていただけるのが望ましい。	○第1部においては、科学研究の手段を限定しないよう、推進費を記載していませんが、第2部において、関係する施策を追加しました。	個別
	●「国家勘定」とあるが、「国民勘定(会計)(national account)」のことか。	○ご指摘のとおり、国民勘定に修正しました。	個別
	●「一般市民が主体となって生物多様性を評価し、維持管理を含めて自然環境の保全と活用に取り組むことのできる仕組みを構築していく」という内容を含めていただきたい。	○(3)において、市民参画を含めた連携・パートナーシップを構築する旨を記載しています。	小委
	●国際連携について、ITTOだけが書かれているが、海は外国とつながっている	○ご指摘を踏まえ、海洋に関する国	小委

	ので、海プラやバラスト水条約等充実させる要素がある。	際連携について追記しました。	
第4章	●基本的考え方について、冒頭の3～5行目でなぜこれが出てきているのか。どういうプロセスを経ているのかの記載があると、プロセスが多少わかる。	○ご指摘を踏まえ、冒頭の記載を修正しました。	小委
	●実施に向けた考え方が非常に大事。第2部に多くの施策があるが、これらを進めていく上で、1節の7つの考え方がどう反映されているかが非常に大事。可能であれば少し冒頭の記述を増やしてもよい。		小委
	●基本的考え方は同意するが、これがどの戦略の実施に関連するのかメリハリがつくとよい。	○ご指摘の点は、本戦略の点検の際に留意いたします。	小委
	●「主体性（オーナーシップ）」とあるが、カタカナにしてわからないものを日本語で補完という説明ならわかるが、あえて主体性（オーナーシップ）とか（マルチベネフィット）等カタカナで補完がある。どういう基準で補完しているのか、括弧を付けているのかわかるとよい。文章も長くなるので再考してほしい。	○ご指摘を踏まえ、カタカナによる補足を削除しました。	小委
	●「生態系のつながりを意識した取組」について、「流域を超えたつながり～地球規模のつながり」と書いてあるが、一歩進め、地域性と広域性の施策間の統合の取組を促すことができればよい。各地域でできることは限界がある、連携やレベルを揃えることができるとよく、工夫があるとよい。	○ご指摘を踏まえ、階層間のつながりについて追記しました。また、施策間の連携については、役割の項目の中で追記しました。	小委
	●関連計画との協調について、環境省所管の各種計画との整合性も重要なので、可能であれば少し明確に記載いただきたい。	○ご指摘を踏まえ、具体的な計画の名称を追記しました。	小委
	●各主体の役割の項に入れ込むのが適切かどうかは考えていただきたいが、気候変動対策として再生可能エネルギー、特にメガソーラーみたいなものを今後導入するときに生物多様性についても十分配慮しながら入れ込んでいくような、二つの問題を同時解決するような意思決定の在り方が重要だということも書いていただいても良い。	○トレードオフの回避については、第3章において記載しています。	小委
	●国の役割のところでは「国は、本戦略の実施主体として」とあるので、対比させそれぞれの位置づけを明確にするため、地方公共団体の役割の冒頭に「地方公共団体は生物多様性地域戦略の実施主体として」を挿入してはどうか。	○冒頭の文の主旨を狭めないため、原案どおりとしています。なお、地域戦略に関しては基本戦略5に關係させて記載しています。	個別
●各主体の分類について。農水戦略の議論と異なる分類になっている。違う点は教育機関がこちらにはある。教育機関だけが教育しているわけではないが、学校が基本的な意識改革をする場として重要。また、事業者は、あちらは、農林業者・民間企業・協同組合・メディア・金	○ご指摘を踏まえ、教育機関を追加しました。事業者の区分については、ご指摘のとおり重要なものと認識してい	小委	

	<p>融機関と区分されている。もう少しカテゴライズすることではっきりしたメッセージが出せる。</p> <p>さらに、個々のセクションと基本戦略との関連付けも明確にするとよい。全体的に長いのでわかりにくい。どの主体がどう関わるのかが読み込まないとわからないので、主体と行動目標が対応するようにするのが情報発信にあたり重要。</p>	<p>ますが、ここでは共通の役割を記載することとし、業態別の役割については本文中で触れるようにしています。</p> <p>基本戦略との関係については、文章中で可能な限り対応する基本戦略を記載するようにしています。</p>	
	<p>●研究機関等の記載について、次期戦略の議論が JB03 から始まり、直接要因だけでなく間接要因への対策も重要と認識され、戦略もこれに合わせたものとなっている流れに応えるためには、生態学的な研究だけでなく、ステークホルダーと進める学際的な研究に係る記載が必要。具体的な文言はこちらからも提案できる。 (ご提案いただいた文案は割愛)</p>	<p>○ご提案の文案の主旨を取り入れるよう、追記を行いました。</p>	小委
	<p>●研究者と国民の役割のところ、私たちが普段生活することは物を消費することであり、それがサプライチェーンなどを経由して日本の外の生物多様性にどのような影響を及ぼし得るのかということを考えながら生活できるような情報を研究者は提示すべきであり、国民はそういう情報を受け止めて賢い消費者になっていただくということも是非書き込んでいただきたい。</p>	<p>○ご指摘を踏まえ、研究機関等及び国民の役割に追記しました。</p>	小委
	<p>●地域コミュニティとあるが、取組のベースは必ずしも地域のコミュニティだけではなく、趣味等別の観点もあるのではないか。</p>	<p>○趣味等により集まった集団については、民間団体等に含まれるものと考えています。</p>	小委

【第2部】

	委員からの意見	対応	区分
全般	●各目標で現状値と目標値があるが、2030 ではない目標がたくさんある。2030 年の目標を立てることができないので途中段階の目標を置いた、とかがわかるようにすべき。	○ご指摘を踏まえ目標値の設定方針について追記しました	小委
	●冒頭で、施策と4章の基本的考え方との関わりを明記すべき	○ご指摘を踏まえ追記いたしました	小委
	●重点、継続強化、維持の3種類の違いが分かりにくい	○ご指摘も踏まえ、重点施策と基盤施策の2類型に構成を変更しました	小委
	●各省庁の施策の集合体ではだめで、マイルストーンにしていかなければ、全体を俯瞰して進捗管理する視点を真剣に考えていかなければならない。 ●全体的にホチキス止めの印象強い。	○ご指摘を踏まえ、行動目標にかかる説明の追記や、類型ごとに区分して記載していた施策を、行動目標に対する関係性や属性等に即して並び替えるなど修正いたしました	小委
	●目標ごとに並べるというよりは、JB03を意識した並べ方をするとか規則性のあるようにすると良い	○次期戦略では基本線戦略・状態目標・行動目標・各施策を紐付けることで戦略全体を一気通貫で整理することを大きな骨子としておりますので、現在の方針を維持したいと考えております。そのうえで、できる限り分かりやすい見せ方ができるよう、上記の通り施策の並びを修正いたしました	小委
	●個別事例について、全国的なものとしてまとめる等の工夫が必要。	○ご指摘を踏まえ、特定の地域や種等を対象とする個別施策については、モデル的なものをのぞき戦略本体とは別枠でとりまとめることとします	小委
	●どう生物多様性に結びつくのか分からない施策がある	○ご指摘を踏まえ、関連性が分かりにくい施策については追記しました	小委
	●外来種・外来生物の使い分けを整理すべき	○定義を踏まえ、「特定外来生物」を除き原則「外来種」に記載を統一します。	小委

第1章	<ul style="list-style-type: none"> ●屈斜路湖やシュリコマベツなど個別地域の施策が特出しとなっている点について、他の施策と整合性をとるべき ●個別事例について、残して良いと思うが、全国的なものとしてまとめる等の工夫が必要 	○ご指摘をふまえ、また施策のレベル感の整理の観点から、地域等が限定される個別施策の記載は削除し、個別施策を包含する総論的な施策に統合しました。なお個別施策については戦略本体とは別枠でのとりまとめを検討しています	小委
	●「琵琶湖の保全及び再生に関する法律に基づく各施策を推進する。特に、植物プランクトンの特異的な増殖による水質悪化～」について「特異的な」が分かりにくい。「局所的な植物プランクトンの大増殖による水質悪化」というような表現にすべき	○ご指摘のとおり修正しました。	個別
	●行動目標 1-4 の説明に海と陸のレッドリストの統合について記載すべき	○ご指摘を踏まえ追記しました	小委
	●「保護増殖事業等による希少種の保全」施策について、その結果として、完了事業の間にダウリストを目指すことは入れてほしい	○ご指摘を踏まえ追記しました	小委
	●上記施策の指標「保護増殖事業の実施により、その生息状況が改善され、保護増殖事業の目的が達成されて事業を完了した種数」の目標値について、事業は増加傾向だが卒業させていかなければならない。3種程度では弱気ではないか	○ご指摘をふまえ、事業完了の目標種数については、事業完了の目安となる定量目標に対する事業の進捗状況等を勘案し5種としました	小委
第3章	●施策が農林水産分野に偏っている。企業に関係ない印象を与えないよう施策のバランス感を考えるべき	○ご指摘をふまえ、3-1, 3-2 にビジネス関係の記載・施策を追加しました	小委
	●「人工種苗生産技術の開発・普及」施策について、どう生物多様性に結びつくのか、どうして関係するのかがきちんと書かれなるとわからない	○ご指摘を踏まえ、当該施策を含め生物多様性等との関係が不明瞭な施策については関係を追記しました	小委
	●「さけ・ます増殖事業の推進」施策について、知床含め野生の鮭を復活させようとやっている中で、増殖事業だけを打ち出すのはどうなのか。	○ご指摘を踏まえ追記しました	小委
第5章	●環境研究総合推進費を活用して、より多くの研究者が自然環境に関する研究に携わっていただけるようにするのが望ましい	○ご指摘を踏まえ関連施策を追加しました	個別